

THE GRANPHONIC CONCERT 15th

グランフォニック 第15回 定期演奏会

2018年5月27日(日)

東海市芸術劇場大ホール

ごあいさつ

本日はグランフォニック第15回定期演奏会にご来場賜り、誠にありがとうございます。
昨年1月の第14回定期演奏会は大雪となりましたので、今回は緑美しい5月の開催と致しました。

昨年7月には「名古屋テアトロ管弦楽団/合唱団」設立記念のイタリアオペラガラコンサートに賛助出演を果たしました。また初めての試みとしてワンステージメンバーを募集し、「東京景物詩」、「レクイエム」に10名以上を迎えることができました。非常に嬉しく思っております。

今年は愛知県合唱連盟より藤井賞をいただき大変名誉に思っております。これも皆様方の応援の賜物と感謝申し上げます。これを励みに今後もオリジナルなステージ作りに邁進する所存です。

我が団は1994年創立の若い合唱団ですが、日本社会同様高齢化の大波が押し寄せております。それに打ち勝つには常に前進あるのみと思っております。声はまだまだ若いと自負しております。今回も「ディズニーコレクション」で動きのあるオリジナルステージに挑戦し、振り付けも精一杯の稽古を重ねました。どうぞ最後までお楽しみください。

グランフォニック 団長 間瀬 譲

PRO

グランファーレ序曲

原詩：F. v. Schober

作曲：なりた まさと

指揮：小嶋 聡

ピアノ：はやせ ようこ



バリトン独唱、 男声合唱及びピアノのための 「レクイエム」

作曲：三木 稔

バリトン独唱：鈴木 健司

指揮：向川原 慎一

ピアノ：はやせ ようこ

前奏曲

第一楽章

第二楽章

第三楽章

第四楽章

第五楽章

..... 休 憩

GRAM

stage 3

「ディズニーコレクション ～男たちへの賛歌～」

構成／台本：井原 義則

編曲：源田 俊一郎

賛助出演：子どもミュージカル劇団「show-Wal」

特別出演：小嶋 愛子

指揮：小嶋 聡

ピアノ：はやせ ようこ

stage 2

男声合唱組曲 「東京景物詩」

作詩：北原 白秋

作曲：多田 武彦

指揮：高津 真司

1. あらせいとう
2. カステラ
3. 八月のあひびき
4. 初秋の夜
5. 冬の夜の物語
6. 夜ふる雪

1. Alice In Wonderland "Alice In Wonderland"
Music by Sammy Fain
Words by Bob Hilliard
2. When You Wish Upon a Star "Pinochio"
Music by Leigh Harline
Words by Ned Wachington
3. Cruella De Ville "101 Dalmatians"
Music by Mel Leven
Words by Mel Leven
4. Heigh-Ho! "Snow White"
Music by Frank Churchill
Words by Larry Morey
5. I Bring You a Song "Bambi"
Music by Frank Churchill
Words by Larry Morey
6. Love Is a Song "Bambi"
Music by Frank Churchill
Words by Larry Morey
7. Let's Go Fly a Kite "Merry Popines"
Music by Richard M.Sherman & Robert B.Sherman
Words by Richard M.Sherman & Robert B.Sherman

総合演出：井原 義則

照明：古川 靖（株若尾総合舞台）

舞台監督：磯田 有香

PROGRAM Note

レクイエム

「死者のためのミサ」とも呼ばれる「レクイエム」はローマ・カトリック教会の典礼に用いられる音楽の名称で、モーツァルト、ヴェルディ、フォーレの作曲したものがクラシック音楽の歴史の中で代表作とされています。しかし、死生観は宗教や民族性や時代性などによって様々なものがあるわけで、作曲者の三木稔は「レクイエム」という言葉を用いながらも、キリスト教以外の死者の悼み方に目を向けた、全く分類の違った「レクイエム」を私達に残してくれました。

この曲に使われているテキストは南ポリネシア島民の歌を翻案したもので、亡くなった酋長の甥の精霊が、他の精霊たちを引き連れて、海の向こうのあの世に赴くさまを描き出しています。大きな墓穴から入った一行は海べりまで、鋭い石や岩の断崖で足を痛めながら進み、平らな岩にたどり着いて南東の風を待てば、広い海を渡って向こうの国に行くことができるのです。最初は死者の親族や友人たちが精霊たちの一群を見送る挽歌として始まりますが、途中からは精霊たちが主役となって話し始め、生者と死者とが同一となって音楽が進行していきます。

そもそも、生と死の間には明確な区切り・壁などないのかもしれませんが。死者が黄泉の国へ旅立とうとする行程は、現在生きている我々もすでに同じ道を歩いているとも言える訳ですから、別の世界に行ってしまう人を、ただ悲しみながら傍観しているわけにはいかないのでしょう。生きている者が死んだ者を悼むことは厳粛な事実ではありますが、弔い

とは死者のためのものではなく、むしろ生きている者がその生を継続していくための知恵としての儀式なのであって、その先には、いずれ確実に訪れる「自分の死が横たわっている…！」人は弔いの儀式で「人の死」と「自分の死」の両方に向き合うことになるわけですから、この歌が両者の混じり合った会話としてあることは、ごく自然なことかもしれません。

「友よ、魂の国へ行く用意はいいか」と、この曲は歌います。これは死者への語りかけ、或いは死者同士の会話ではなく、生きている我々にも問いかけられているのでしょう。天寿を全うできなかった無念さと未知の国への不安を抱え、或いは一縷の希望も携えながら、魂の国へ進んでいく精霊たちの一群。彼らの行程に寄り添いながら、この歌を歌う我々も、聴いて下さる皆さんも、その予行演習をすることになっているのかもしれません。

大量殺戮や天災などで天寿を全うできなかった人々への鎮魂歌だと作曲者は言います。私達はそれに共感してこの歌を歌います。自分たちの死とも向き合いながら…。

尚、1963年の初演は男声合唱で管楽器とパーカッションを主としたオーケストラ伴奏でしたが、その後ピアノとオルガン伴奏の版が作られました。さらに1976年には作曲者によって混声合唱版ができ、作曲者の依頼によって伴奏は荻窪和明氏がピアノ1台のための編曲をしました。本日のピアノはこの版を使用いたします。また、初演から42年後の2005年にはソプラノソロを伴う1楽章が追加で作曲され、現在市販の楽譜はこれを含めて全6楽章の版となっていますが、本日は新しい楽章を除いた旧版（5楽章）で演奏いたします。

彼岸への対話

△レクイエム歌詞として▽

第一楽章

聴こえるか友よ 海鳴りの声が

あの松の林の蔭の

大岩の上で飛び散る波の音だ

さあ、お別れの時が来た

どなたもお支度は喪服に花束

さあ行け あそこの扁平な岩まで

あそこで順風の来るのを待とう

おまえを海に向うへ渡す風を

あの深く 薄暗い断崖

不安定な石の上か

お、わたしの魂を休ませてくれ

聴こえるか友よ 海の音楽が

お前は倅の悪い旅人

きょうから住む国と決まったあそこは

大口あいた墓穴が通路だ

さあ、お別れの時が来た

どなたもお支度は喪服に花束

第二楽章

わたしの道は

海に近い真黒な岩壁の上を走っている

足場もない切りたつた岩の上を

この足弱な霊たちを連れてゆくのか

お前の道は

海に近い真黒な岩壁の上を走っている

足場もない切りたつた岩の上を

お、ここまで追い込んだものは何だ

霊たちよ 待とう

南東の風

それが わたしたちを吹いて

この広い海を渡してくれるのだ

あちこちと彷徨うのだ

潮に洗われた岩の上も

軽々と跳び歩こう

でこぼこな岩で足を痛め

幽暗な気に圧されて崩折れ

そしてなつかしむ

おや泣虫ぞろいの御一同

その指揮官が

お、友 お前か

時折かかる湿つばい霧のベールが

たたずむ山々を視野からかくし

時には潮の飛沫が吹きつける

さあ、お別れの時が来た

どなたもお支度は喪服に花束

第三楽章

急げ

急げや

船出の場所へ

気をつける 足をふみはずすな

返れ

引返せ

船出はすまい

岩も叫ぶ 木も叫ぶ

海の風さえ取り乱している

急げ 急げや

船出の場所へ

岩道では誰も彼も足を痛めたらしい

棕櫚の林の間を縫って

あれが淋しい彼岸への道

どうやら道の半分は来た

日が落ちるか

暫く待とう

見よ、東を

見よ、西を

見よ、太陽はすでに地の果にかがり

再び道を返すすべもない

さあ、お別れの時が来た

どなたもお支度は喪服に花束

第四楽章

お、友よ その足は

つる草に絡まれた

枝の繁りも行く手をさえぎり

花の香りも虫の声も

その胸を乱す

友よ

魂の国へ行く用意はいいか

いまこそ泡立ちたぎる海原こえて

現身のない魂が好むという

棕櫚の木の暗くうち続く間を縫って

波巻く濃藍の海原超えて

友よ 用意はいいか

蟋蟀も泣いてお前の通る

磯の叢林のこみちを案内する

死者の魂のさ迷う道だ

お、友よ 翻る後髪を洗え

第五楽章

嵐をさける にげ場はどこだ

鎮まれ 鎮まれ

気を鎮めて そっと吹いてくれ

傷ついた魂がひと眠りする間

お、足許の大地が二つに割れた

海が二つに割れた

岩も割れ 木も割れた

ぽっかりあいた 大きな割れめは

手招きして わたしたちを待っている

南東の風

では さようなら

甘い香りの花の芽で飾り

佳い匂いのする繁葉も添えた

友に安らかな眠りを賜われ

さあ、お別れの時が来た

どなたもお支度は喪服に花束

北原白秋と「東京景物詩」

明治37年、19歳で上京した白秋は明治41年に木下杢太郎、上田敏らと文芸懇話会「パンの会」を起こします。（パン＝ギリシャ神話の牧畜、狩猟の神の意）この時代の白秋は、処女詩集『邪宗門』（明治41年刊）、第二詩集『思ひ出』（明治44年刊）に続いて、『東京景物詩及其他』（大正2年刊）を発表します。隅田川河畔で「パンの会」のメンバーと文学論、芸術論を戦わせる一方で、郷里の柳河では資産家の御曹司として裕福な暮らしをしていた彼は、好奇心のおもむくままに東京の街を漂い遊んでいたのでしょう。（上京後の9年間で17回も転居している。）白秋というと晩年の閑寂な詩風や、童謡創作の印象が強いのですが、この時期の白秋は都会の刺激に溺れまた、幾たびか恋のために手痛い目に遭ったためでありましょうか、官能的、耽美的な色合いが強くなっています。

男声合唱組曲「東京景物詩」は詩集『東京景物詩及其他』から4編の詩を採って組曲の骨格としています。この『東京景物詩及其他』では一人の人妻と恋に落ちたことが題材となっています。明治43年9月、原宿へ転居した白秋は隣家の人妻松下俊子と知り合い、不幸な結婚生活を送る俊子への同情の気持ちも相まって恋に落ち、その秘恋への悩みが切々と詩に綴られていきます。明治45年、苦悩して居を転々とする白秋のもとへ、離婚を宣言された俊子が訪れますが、彼女の夫は法的には離婚はいまだ未成立として白秋を姦通罪で告訴します。白秋と俊子は市ヶ谷未決監に2週間拘束されてしまい、この事件により白秋の盛名は失墜することとなります。世間の糾弾以上に罪の意識に苦しむ白秋は狂気寸前の錯乱状態に陥ったともいわれています。大正2年、正式に俊子と結婚し、7月、『東京景物詩及其他』が刊行されます。

白秋自身、「この詩集は種々雑多の異風の総合詩集であり、何ら統一はない」と述べていますが、そこには白秋の俊子への、東京への深い思い入れが感じられます。

<曲目解説>

あらせいとう

文京区の小石川植物園でたまたま「あらせいとう」（ストック）の花の種を取りに来た少女に俊子の姿を感じ、彼女を幸福にできない苦しみ涙します。

二人で訪れた植物園に赤い夕日が沈んでゆく情景がさらに哀しみを誘います。

カステラ 第二詩集『思ひ出』より

幼時に白秋はチフスに罹患しますが、一命をとりとめます。しかし懸命に看病したであろう彼の乳母がチフスを移され、亡くなってしまいます。白秋にとってカステラは、幼いころの感覚を呼び起こさせると同時に、やさしかった乳母の死をも回想させる悲しい菓子でありました。

八月のあひびき

不幸な人妻俊子に恋してしまった白秋は、転居をくり返しますが、その思いを振り切ることができず、傾斜面を滑り落ちるように深みにはまってゆきます。俊子への同情の思いと許されない恋愛関係の迷いで万物がすすり泣いているような幻想にとらわれています。「スロウ」表現された斜面は小石川植物園の正門を入ったところの坂道だといわれています。

初秋の夜 詩集『水墨集』より

嵐が去った夜。その名残り、稲妻がまだ幽かに聞こえ、海は轟いてはいるものの、空には星、綿雲、十六夜の月。そして一面に虫の音が聞こえてきます。遠近の対比と視覚的、聴覚的描写が、肌寒い初秋の夜を想像させます。

冬の夜の物語

俊子の夫は愛人を作って俊子を苦しめ、白秋は俊子に同情して夜更けまで話し込むこともありましたが、許されぬ仲でありながら、同情が愛情に変わりそうになる微妙な心理が綴られています。雪の日の午後から夜にかけての時間と天候の推移、二人の心の有り様の推移が表現されています。

夜ふる雪

白秋は雪を俊子のイメージと重ね合わせていたようです。雪の夜に一人で木挽町（東銀座あたり）の運河沿いを歩きながら、芝居のもたらした陶酔に心身をゆだねている白秋。白秋は閉ざされた幕の彼方の演劇の世界にも現実の雪が連続して降っている感覚を味わいます。そして劇中人物の、不遇な人妻や、死ぬより他に道のない哀しい恋人に俊子や自らをだぶらせて「弱い涙」をこぼします。

高津 真司

男声合唱組曲『東京景物詩』

詩 北原 白秋

あらせいとう

人知れず袖に涙のかかるとき、
 かかるとき、
 ついぞ見馴れぬよその子が
 あらせいとうのたねを取る。
 丁度誰かの為るやうに
 ひとり泣いてはたねを取る。
 あかあかと空に夕日の消ゆるとき、
 植物園に消ゆるとき。

詩集『東京景物詩及其他』より

カステラ

カステラの縁の渋さよな。
 褐色の渋さよな。
 粉のこぼれが手について、手についてね、
 ほろほろとほろほろと、たよりない眼が泣かるる。
 ほんに、何とせう、
 赤い夕日に、うしろ向いて、
 ひとり植ゑた石竹。

詩集『思ひ出』より

八月のあひびき

八月の傾斜面に、
 美しくしき金の光はすすり泣けり。
 こほろぎもすすり泣けり。
 雑草の緑とともにすすり泣けり。

わがこころの傾斜面に、
 滑りつつ君のうれひはすすり泣けり。
 よろこびもすすり泣けり。
 悪縁のふかき恐怖もすすり泣けり。

八月の傾斜面に、
 美しくしき金の光はすすり泣けり。

詩集『東京景物詩及其他』より

初秋の夜

月は十六夜、
 ほんの欠け初め、
 稲妻だ、幽かな。

濡れて光るわづかの星、
 綿雲のうす紫。
 稲妻だ、幽かな。

絶えずまたとどろく海、
 嵐の名残。
 稲妻だ、幽かな。

月はいよいよ澄み、
 揺れそよぐ斜丘の小竹、
 稲妻だ、幽かな。

ああ、そして一面の虫の音、
 初秋の露。
 稲妻だ、幽かな。

詩集『水墨集』より

冬の夜の物語

女はやらかにうちうなづき、
 男の物語のかたはしをだに
 聴き逃さじとするに似たり。
 外面にはふる雪のなにごともなく、
 水仙のパッチリとして匂へるに薄荷酒青く揺げり。
 男は世にもまめやかに、心やさしくて、
 かなしき女の身の上に
 なにくれとなき温情を寄するに似たり。
 すべて、みな、ひとときのいつはりとは知れど、
 互みになつかしくよりそひて、
 ふる雪の幽かなるけはひにも涙ぐむ。

女はやらはかにうちうなづき、
 湯沸のおもひを傾けて
 熱き熱き珈琲を掻きたつれば、
 男はまた手をのべてそを受けんとす。
 あたたかき暖爐はしばし息をひそめ、
 ふる雪のつかれはほのかにも雨をさそひぬ。

遠き遠き漏電と夜の月光。

詩集『東京景物詩及其他』より

夜ふる雪

蛇目の傘にふる雪は
 むらさきうすくふりしきる。

それを上げば松の葉に
 忍びがへしにふりしきる。

酒に酔うたる足もとの
 薄い光にふりしきる。

拍子木をうつはね幕の
 遠いころにふりしきる。

思ひなしかは知らねども
 見えぬあなたもふりしきる。

河岸の夜ふけにふる雪は
 蛇目の傘にふりしきる。

水の面にその陰影に
 むらさき薄くふりしきる。

酒に酔うたる足もとの
 弱い涙にふりしきる。

聲もせぬ夜のくらやみを
 ひとり通ればふりしきる。

思ひなしかはしらねども
 こころ細かにふりしきる。

蛇目の傘にふる雪は
 むらさき薄くふりしきる。

詩集『東京景物詩及其他』より

ディズニーコレクション

■ディズニー音楽と源田先生

誰にでも、どの世代にも愛されるディズニー作品。ディズニーの世界には、美しいメロディが数多くあり、映画と共にその音楽にも人々を魅了し続ける大きな力があります。そんなディズニー音楽が源田先生によってダイナミックでかつ色彩豊かなメドレーに生まれ変わりました。この曲集は1986年に初演されて以来、各地の男声合唱団で歌い継がれています。源田先生はあるパンフレットへ、「委嘱初演された作品が、二度と歌われることなくお蔵入りにになってしまう…中略…出版されたけれど歌われない作品より、出版されなくても歌われ続ける作品の方に価値を置きたい」※という想いを書かれています。親しみ深いこの作品が広くもっともっと歌い継がれていくことを期待してやみません。

※慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団第117回定期演奏会パンフレット（1992年）より

■ステージ紹介

ディズニー作品を取り上げるにあたり、小さい頃地元の”夢の国”へ通った日々を思い返してみると、あの頃想像していた光り輝く未来の世界、夢の世界、思い描いていた理想や期待…大人になった我々が生きている現実、生きてきた世界は、そんな想いを馳せる余裕を与えてはくれず、いつしか純粋に夢を追いかけていたことすら忘れてしまっていることに、はたと気づかされました。もう一度夢を思い出そう、たとえ夢はかなわなくても笑って今を生きよう、そしてその先には温かい愛、家族が待っていることを祝おう。そんな想いをディズニーの美しいメロディに加えてみました。

～男たちへの賛歌～

二人の男たちは、居酒屋でグラスを空けつつ語っていた。ふとしたきっかけで子供の頃に新しい世界、見たことのない世界を夢見ていたことを口にする。……Alice In Wonderland(不思議の国のアリス)……二人は幼い頃、純粋な想いで夢を願い、その願いが叶うように星に祈っていたことを思い出すのだった。……When You Wish Upon a Star（星に願いを）……そんな願いは、あたかも悪女クルエラのように邪魔する奴が現れ、いとも簡単に踏みにじられてしまうことに、半ば呆れながら嘆く二人………Cruella De Ville（街のクルエラ）……

現実に戻った二人は、挫折があっても楽しく生き生きと、つらいことさえ笑って飛ばせるように歌を歌いながら働きたいね、と酒を酌み交わす。……Heigh-Ho！（ハイホー！）……ふとしたきっかけから初恋の思い出がよみがえってきた。男をかけて挑んだ恋、そんな燃えるような恋をもう一度してみたい、と若かりし青春時代をふりかえるのだった。……I Bring You a Song（あなたに歌を）……そんな燃える恋が成就し、守るべき愛する家族ができた。いつしか優しい歌声と慈愛で包まれた温かな家庭を持っていたことに改めて気づく二人。……Love Is a Song（愛の歌声）……

時の経つのも忘れゆっくりと語り合った二人は、急に家族が恋しくなった。家族のために苦しい仕事もこなせる、家族の笑顔のために、家族と一緒に歩んでいこう、と心に誓い、家族へ乾杯するのだった。……Let's Go Fly a Kite（風をあげよう）……

小嶋 聡

1. 不思議の国のアリス

不思議の国にはどうやって行くの？
丘を越えて、それとも地下に
それとも木の後ろにあるの？

雲が流れていくときは
ずっと流れて空が残る
私たちの目に見えない国は
どこにあるのかしら

どこにあるというのかしら
星たちはどこへ行くの？
三日月はどこにあるの？
みんな天気の良い午後の
どこかにあるはずよ

不思議の国への道はどこにあるの？
丘を越えて、それともここに？ そここに？
どこなのかしら？

2. 星に願いを

星に願いごとをするときは
君が誰かは関係ないのです
願いは何でも叶えられるでしょう

君の心が夢をみてるのなら
どんな願いも叶います
夢見るように星に祈っていると

運命の女神はやさしく
愛しあう人達の心に秘めた願いを
美しく叶えてくれるのです

晴天の霹靂のように
運命は君のところへやってきます
星に願い事をすると夢が叶うのです

3. 街のクルエラ

街のクルエラ
彼女より怖いものはない
何よりも邪悪 見るだけで震えがくる
ねじれた唇 氷のような眼光
無邪気な子供たちは用心したほうがいい
獲物を待ち構えるクモのような女
気をつけるんだ クルエラには
最初はまるで悪魔のよう
でも慣れてくると気がつく
彼女の目に見覚えがある
岩の下から君を見張っている
吸血コウモリみたいな女 冷酷なけどもの
彼女はどこかに閉じ込めておくべきだ
前は住みやすい世の中だった

4. ハイホー！

僕らは掘る 一日ずっと鉱山で
僕らは掘るのが好きなんだ

掘る時僕らはいつでも歌う
なぜって 掘っている時にゃ
歌っているのが一番なのさ
口笛を吹いてもいいし
優しくしっとり歌ってもいいよ

ハイホー！ ハイホー！
悩みを忘れてしまいたい時は
朝から晩まで歌っていればいい

ハイホー！ ハイホー！
憂鬱な気分になってる時も
ハイホー、ハイホーと歌っていれば
そんな気分も吹っ飛ばさう

ハイホー！ ハイホー！
仕事も終わったし、僕らは家に帰るんだ
七人みんなで一列で

5. あなたに歌を

あなたに歌を届けよう
あなたという愛を探している事を
知って欲しいから
あなたに見つめて欲しいから
その時あなたの瞳に
恋に焦がれる私が映るだろう

私は愛を歌おう 愛してくれと
あなたはずっとそばにいろだろう
真実の愛なのだから

愛をもって歌おう
あなたがどこにしようと
あなたを腕に抱いて
柔らかに暖かいワルツの調べに乗せて

あなたに歌を届けよう
そばにいるあなたとともに歌おう
優しく輝く 月の光のなかで
恋に落ちるあなたとともに

6. 愛の歌声

愛の歌声は終わらない
命は短くはかなくとも
希望は消えても 愛の美しい歌声は
夜明けのように毎日聞こえてくる

まるで天国の聖歌隊のように
愛の優しい歌声は流れてゆく

7. 風をあげよう

2ペンスで紙と糸を買えば
自分の翼があなたにできる
大地をしっかりと踏みしめて
あなたは鳥になって空へ舞い上がる
あなたの風の糸をしっかりとつかんでいれば
あなたがそこまで飛ばせてやると
あなたがすぐに空気よりも軽くなる
家や木の上の微風に乗って踊れるのです
あなたの風の糸をしっかりとつかんでいれば
さあ、風をあげよう うんと高くのぼらせて
大気の真ただ中へ
空気の澄みきった上空へ
さあ、風をあげよう

PROFILE

井原 義則 総合演出
Ihara Yoshinori



愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業、同大学院修了。ウィーン・ゲーテアニッシェスコンセルヴァトリウム卒業。洞谷吉男、故小島琢磨、神田詩朗、故木下武久、中田淳子、故ヒルデ・レッセル＝マイダン、児井恵の各氏に師事。ドヴォルザーク「レクイエム」でデビュー後、ベートーヴェン「第九」、ヘンデル「メサイヤ」などのミサ曲や合唱のソロを数多く務める。

また、オペラでは「モーツァルト四大オペラ」や

「マルタ」、「真夏の夜の夢」、「宗春」、「織部焼文様」、「琵琶白菊物語」、「民吉」など、オペレッタでは「こうもり」、「メリー・ウィドウ」、「伯爵令嬢マリッツァ」など、ミュージカルでは「ウェスト・サイド物語」、「ファンタスティックス」、「ショーボート」、「カルメンジョーンズ」など多くの作品で主役を数多くこなし、いずれも好評を博す。

リサイタル・ジョイントリサイタルをはじめ、その他のコンサートも多数。

また、豊田オペラグループ、愛知県立芸術大学オペラ工房のオペラ演出家としても好評を博す。

第2回名古屋市芸術創造賞受賞。第2回名古屋市新進芸術家海外研修員として短期留学。

1989年から3年間、あらためてウィーンに留学。

現在、愛知県立芸術大学常勤講師、南山大学エクステンションカレッジ、NHK文化講座講師。

名古屋市昭和和文化小劇場芸術アドバイザー

向川原 慎一 指揮
Mukaigawara Shin-ichi



早稲田大学卒業。

現在「グランフォニック」など、7団体の合唱指揮・指導、および2つの文化センターの講師を務めている。指導している団体用の編曲をはじめ、特殊な編成や事情の依頼による室内楽や合唱の編曲も多数。

また歌曲を中心とした作曲活動で、2007年、奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門（中田喜直賞の部）では谷川俊太郎の詩「はる」に作曲した作品が最優秀賞を受ける。金子みすゞの一連の詩に取り組み、これまでに数十曲の独唱曲と女声合唱曲を作曲。その一部は2枚のCD録音と楽譜にして発表している。

小林研一郎氏に師事。

小嶋 聡 指揮
Kojima Satoshi



千葉県出身。幼少よりピアノを始め、主に歌とヴァイオリンの伴奏を独学で学ぶ。

大学進学後、慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団に入団。畑中良輔、大久保昭男、北村協一、網川立彦、佐藤正浩各先生に薫陶を受ける。

大学合唱の傍ら、慶應義塾中等部コーラス部を指導し、自身が中等部生のために編曲した、ミュージカル「レ・ミゼラブル」などを指揮。今でも後進の育成に努めている。また、自らオーケストラ・合唱を主宰し、演奏会で披露、好評を博す。

指揮を角田鋼亮氏に師事。

高津 眞司 指揮
Takatsu Sinji



愛知県出身。刈谷高校のクラブ活動で合唱と出会う。慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団に入団、学生指揮者を務め、木下保、畑中良輔両先生の薫陶を受ける。指揮を北村協一氏に師事。

永らくグランフォニックの指揮をしてきた成田正人氏の海外赴任に伴い、副指揮者に抜擢された。

彼の指揮で演奏するのは、当団の前身である「東西四大学OB合唱団東海」と名乗っていた時からおよそ20年ぶりである。

「野球のピンチヒッターは名前とは裏腹にチャンスの場合に出番が多いように思われるが、今回はまさにピンチヒッター。重圧に負けぬよう、良い音楽をしたい。」とは、彼の弁である。

鈴木 健司 バリトン
Suzuki Kenji



コンサートでは、ベートーヴェン「第九交響曲」、バッハ「カンタータ」、シューベルト「G-dur ミサ」モーツァルト「戴冠ミサ」「レクイエム」サリエリ「レクイエム」ロッシーニ「小荘厳ミサ」フォーレ「レクイエム」等の宗教曲ソリストをつとめる。

これまでに歌曲集「冬の旅」「詩人の恋」を取り上げリサイタルを行った。オペラでは「ドン・ジョヴァンニ」「カプレーティ家とモンテッキ家」「ランメルモールのルチア」「椿姫」「リゴレット」「仮面舞踏会」「エルナーニ」「オテロ」「ボエーム」「蝶々夫人」等に主要な役柄として出演。

第58回全日本学生音楽コンクール大阪大会一位、第7回日本演奏家コンクール学生部門第一位、第6回大阪国際音楽コンクール学生部門第一位。第46回なにわ芸術祭新人賞を受賞。愛媛大学教育学部卒業。大阪芸術大学大学院博士課程修了（芸術博士号取得）。現在東海中高男声合唱団指揮者。

はやせ ようこ ピアノ
Hayase Yobko



愛知教育大学音楽科卒業、同大学院修了。

在学中より、名古屋二期会を始め、名古屋オペラ協会、三重オペラ協会など、主に東海三県にてオペラのピアニストを務め、現在はプロの伴奏ピアニストとして多数のステージに参加。

また名古屋芸術大学では長年にわたり、オペラ授業にて学生の指導に携わっている。

現在関わっている合唱団は5団体、そのほか、アンサンブルピアーチェメンバー、声楽グループPASSO A PASSO音楽監督、岐阜のチャリティコンサートでは毎年演奏と司会を担当している。グランフォニックとは、連続12回の共演となる。



子どもミュージカル劇団「show-Wa!」

昭和 cultura 小劇場の座付き劇団として、開館と共に結成。2017年より小・中学生を中心に活動中。想像力や自己肯定感を高めコミュニケーション能力を身につけるプログラムの開発と普及活動に取り組んでいる。2018年3月25日には旗揚げ公演として「プチ・ミュージカル『星の王子さま』（抜粋）〜いつまでも、ともだち〜」を上演。大反響を得て追加公演を含めて完売御礼、成功を収めた。今後も継続事業として、学校の垣根をこえて本来出会うことはなかった地域の子どもたちを繋ぎ、文化芸術の楽しさを伝えていく。

出演メンバー：磯貝 望 岡田 翔 神谷 高志朗
木村 理香 住田 妃望 名原 穂乃
成川 実里 パストゥホフ 恵玲奈 日高 琴音
牧 美温 (五十音順)

末吉 利行 ヴォイストレーナー

東京藝術大学卒業、同
大学院オペラ科修了。

畑中良輔、平野忠彦、
田中万美子、河合彰の諸氏
に師事。

ジローオペラ新人賞を受賞。
新国立歌劇場、東京二期会、藤沢市民オペラ等のプ



ロジェクトにおいて活躍。モーツァルト、プッチー
ニ、ヴェルディ等の作品のほか、多くのレパート
リーを持っている。

17年間連続で大学オペラ制作責任者を務め、昨年9
月、大学創立50周年記念オペラ《ラ・ボエーム》で
は制作責任者、兼マルチェッロ役を歌い、公演を成
功に導いた。

ドイツ、フランス、日本の歌曲にも精通している。
愛知県立芸術大学教授、洗足音楽大学非常勤講師、
NHK名古屋文化センター講師。

Granphonic Photo Archive

since 1998

1998.1.31 第1回東西四大学O B合唱団東海定期演奏会



第1回／第2回…東西四大学O B合唱団東海
定期演奏会

第3回～グランフォニック定期演奏会



1999.4.17 第2回

2000.10.28 第3回 グランフォニック定期演奏会



2002.3.24 第4回



2003.10.26 第5回



2005.5.15 第6回 (名古屋)
2005.5.29 第6回 (東京)



2006.11.11 第7回



2006.11.11 第7回

2006.11.11 第7回



2006.11.11 第7回



2008.5.6 第8回



2009.9.23 第9回



2009.9.23 第9回



2011.5.28 第10回



2011.5.28 第10回





2012.11.3 第11回



2014.5.18 第12回



2012.11.3 第11回



2014.5.18 第12回



2015.10.25 第13回



2017.1.14 第14回

THE GRANPHONIC

THE GRANPHONIC T¹

三ツ松 平 (名古屋市) 鹿住 誠 (長久手市)
伊藤 高潤 (長久手市) 小林 武 (一宮市)
鈴木 英孝 (豊橋市) 黒岩 實 (岡崎市)
小宮 俊英 (名古屋市) 榎本 真丈 (長久手市)
石川 周二 (大府市) 高津 眞司 (刈谷市)
中川 暢 (名古屋市)

THE GRANPHONIC T²

柴田 道昭 (名古屋市) 三ツ口 勝弥 (名古屋市)
石井 清 (名古屋市) 間瀬 譲 (半田市)
飯田 公男 (名古屋市) 松浦 治徳 (名古屋市)
河内 幸雄 (名古屋市) 大村 元 (一宮市)
松永 鐘治 (名古屋市) 高橋 淳一 (大府市)
神谷 立正 (名古屋市)

THE GRANPHONIC B¹

黒田 泰男 (名古屋市) 永井 一美 (大府市)
細江 太喜雄 (名古屋市) 寺島 正晃 (長久手市)
水野 邦明 (日進市) 安田 俊哉 (北名古屋市)
芝木 昌一 (名古屋市) 天野 浩 (半田市)
荒田 武 (春日井市) 木全 和明 (名古屋市)

THE GRANPHONIC B²

井ノ口 貴敏 (名古屋市) 浅井 良之 (名古屋市)
外村 俊夫 (名古屋市) 松原 成憲 (名古屋市)
犬塚 弘道 (長久手市) 小嶋 聡 (日進市)
成井 詔彦 (日進市) 木村 文隆 (名古屋市)
村上 信 (名古屋市) 羽原 知宏 (岡崎市)

ワンステージメンバー	T1	T2	B1	B2
	浅井 裕之	伊東 哲也	竹内 祥泰	石田 治
	井坂 清徳	本多 一義	澤田 光隆	谷川 昌隆
	野村 光		藤田 裕久	松井 則夫
	浅野 幸伸			

団長	間瀬 譲	音楽スタッフ
幹事長	木村 文隆	
副幹事長	中川 暢	指揮者 成田 正人
会計	松浦 治徳	〃 小嶋 聡
内務	松永 鐘治	副指揮者 高津 眞司
渉外	荒田 武	
パート総務		パートリーダー
	(T1) 石川 周二	(T1) 中川 暢 (兼)
	(T2) 河内 幸雄	(T2) 三ツ口 勝弥
	(B1) 永井 一美 (兼)	(B1) 永井 一美
	(B2) 村上 信	(B2) 浅井 良之
		名誉団員・指揮者 向川原 慎一

グランフォニックでは仲間を募集しています。

JASRAC 出 1803528-801

【練習日】 毎週水曜日 18:45~21:00 (月1回土曜又は日曜日)

【練習会場】 名古屋市音楽プラザ (金山) 他

【団費】 月額3,000円

【お問い合わせ】

グランフォニック

検索

<http://www.granphonic.com>

THE GRANPHONIC CONCERT 15th

グランフォニック 第15回 定期演奏会

男声合唱組曲

「東京景物詩」

作詩：北原 白秋

作曲：多田 武彦

指揮：高津 真司

バリトン独唱、男声合唱及びピアノのための

「レクイエム」

作曲：三木 稔

指揮：向川原 愼一

バリトン独唱：鈴木 健司

ピアノ：はやせ ようこ

「ディズニーコレクション

～男たちへの賛歌～

構成／台本：井原 義則

編曲：源田 俊一郎

指揮：小嶋 聡

ピアノ：はやせ ようこ

賛助出演：ミュージカル劇団「sho-Wa」

総合演出：井原 義則

照明：古川 靖 (株)若尾総合舞台)

舞台監督：磯田 有香

2018
5.27 (日)

4:00pm開演(3:30pm開場)

東海市芸術劇場大ホール

名鉄「太田川駅」直結(南口)

「名鉄名古屋駅」から中部国際空港・河和・内海方面の特急で約15分



指定席 A (1階) : 2,500円 指定席 B (2階) : 2,000円

お問い合わせ：木村 tel:09C-8673-6501
THE GRANPHONIC <http://www.granphonic.com>

THE GRANPHONIC CONCERT 15th

PRプログラムGRAM

男声合唱組曲「東京景物詩」

明治37年、19歳で上京した白秋は3作目の詩集として「東京景物詩及其他」を発表しました。これは好奇心のおもむくままに東京の街を遊び漂っていた頃の創作であり、晩年の童謡作詩家としての作風とはかけ離れた官能的、耽美的な傾向が色濃く表れています。白秋の東京での青春は都会の刺激におぼれ、幾たびか恋のために手痛い目に遭った時代でありました。

男声合唱組曲「東京景物詩」は「東京景物詩及其他」から4編の詩を採って組曲の骨格としています。隣家の人妻との許されぬ恋、初めて異性を感じた乳母の思い出、想いを寄せる女性とイメージの重なる「東京で目にする雪」などが歌われています。

バリトン独唱、男声合唱及びピアノのための「レクイエム」

この曲の詩はポリネシア島民の歌を翻案したもので、大量殺戮などで天寿を全うできなかった人々への鎮魂歌だと作曲者は言います。私達はそれに共感してこの歌を歌います。ただ、生と死の世界を単純に分けることはできません。

「友よ、魂の国へ行く用意はいいか」とこの曲は問います。死者同士の会話ではない。生きている我々への問いかけでもあります。天寿を全うできなかった無念さを携えながら、黄泉の国へ進んでいく魂の一群。彼らの行程に寄り添いながら、我々はいわば臨死体験をすることにもなります。…こんな「レクイエム」が他にあったでしょうか？

DIRECT総合演出R

井原 義則

Ibara Yubinori

愛知県立芸術大学音楽学部
声楽専攻卒業、同大学院修了。

ウィーン・ゲーデアニツシェス
コンセルヴァトリウム卒業。

オペラ・オペレッタ・ミュージカルなどの主役を数多くこな
し、いずれも好評を博す。ミサ曲や合唱のソロも数多く務め
る。

リサイタル・ジョイントリサイタルをはじめ、その他のコン
サートも多数。また、オペラ演出家としても好評を博す。

第2回名古屋芸術創造賞受賞。第2回名古屋市新進芸術家
海外研修員として短期留学。

1989年から3年間、あらためてウィーンに留学。

現在、愛知県立芸術大学非常勤講師、南山大学エクステン
ションカレッジ、NHK文化講座講師。名古屋市昭和文化的劇場
芸術アドバイザー。

「ディズニーコレクション ～男たちへの賛歌～」

昔懐かしいディズニー映画には、誰もが口ずさむ数々の名
曲がありますが、グランフォニックで取り上げたことのある
唱歌メドレー「ふるさとの四季」編曲の源田俊一郎先生の手
によって、ダイナミックでありながら馴染みやすい曲集とし
て生まれ変わりました。その曲たちは、現実社会を必死に生
きる男たちに、夢を求めている頃に時を駆けさせ、人生を賭
した燃えるような恋を思い出させ、そして今を共に歩む家族
への愛を語らせてくれます。

グランフォニックのメンバーはこの男たちに自らを投影
し、身体全体で想いを表現します。

無事に男たちを演じ切ることが出来るでしょうか。どうぞ
お楽しみに！



新団員 募集中!

まずは
練習見学にお越しください。

練習 : 毎週水曜日 19:00~21:15
月1回(土曜日又は日曜日)

場所 : 金山 音楽プラザ
会費 : 3,000円/月(学生の方は半額)
指揮者 : 向川原 慎一 小嶋 聡 高津 眞司
団員 : 30代から80代まで、約45名
入団資格 : 男声合唱が好きな方ならどなたでも
合唱・声楽経験者 大歓迎
お問合せ : 木村 090-8673-6501